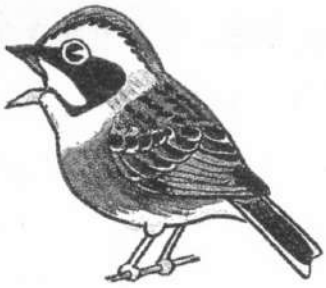
油粕一握りほどを秋と春に分けて施す程度で、あまり多く必要としません。7～8 月は涼しい日陰の地面に降ろして乾燥し過ぎないようにします。11 月以降は、霜など十分寒さにあわせないと早く咲きません。寒さの中で咲いた方が色は良いようです。

【品種】

福寿海、金世界、緋の海、紅撫子、秩父紅、金采などがあります。



自然解説員の自己紹介

直井宏氏（野鳥担当）

私が生まれ育った松戸市小金地区は、昭和４０年頃まで千葉県北総台地特有の谷津田と里山が点在する素晴らしい自然環境でした。当然子供の頃の遊びは戸外で、水温むのを待ち切れず谷津田の細(小さな水路)で田圃の土を使って流れを堰止めてバケツで水を回し出して「うなぎ」を捕ったりし、特に夏休みの終り頃の洗い場の池は「なまず、うなぎ、コイ」等で溢れ水族館のようでした。

冬季は里山で「メジロ、ホオジロ、マヒワ」等を追い、山野の鳥を主に友として殆どの鳥の地鳴き、囀りを判別する事ができるようになりました。折りしも小学校５年の時、国語の教科書で「日本野鳥の会」の創設者である、中西悟堂さんの「ヨシゴイの放飼い」を学び野鳥に対する思い入れが確固なものになりました。

家内の実家が茨城県桜川村浮島で、昭和３９年夏、コジュリンの撮影に訪れていた日本野鳥の会理事の高野伸二さんと会い、浮島西野州地区馬渡地区等の道案内を致し、後に松戸市の公園緑地課（当時の）小鳥を呼ぶ係の主催で常盤平市民センターで記念講演会を催し、会場で偶然数年ぶりにお会いしてその場で日本野鳥の会に入会した経緯がありました。

趣味は、野鳥観察、野球、ジョギング、里山歩き、写真撮影、音楽鑑賞などです。